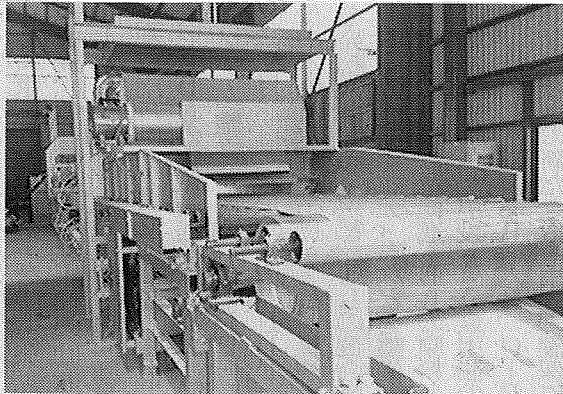


廃ガラスR事業を開始

アヤシロびんを軽石状資材に

土木・碎石事業や廃棄物処理事業を展開するアヤシロ(滋賀県草津市、綾城正壽社長、



「スーパール」の焼成炉

に、多孔質軽量発泡資材「スーパール」を製造。リサイクル資材として販売する他、土木事業などで活用する。

・563
・777
7)は、廃ガラスリサイクル事業を開始した。昨秋に再資源化プラントを本格稼働させ、廃ガラスびんを原料とする機、混合攪拌装置、

焼成炉などの機械装置と各自動制御装置を備え、廃ガラスを色ごとに選別せずまとめて破碎し、カレット化した上で、さらに細かく砕き粉化する。ふるい

に掛けて異物を取り除き、発泡剤などの添加材を混ぜて焼成発泡させ、軽石状の多孔質軽量発泡資材「スーパール」を製造する仕組みだ。スーパールは透水性・保水性ともが高く、耐火性も備え、環境に

も優しい資材。添加材の配合や焼成条件を変え、比重や吸水率の調整が可能で、地盤材や盛土材、土壌改善材、水質浄化材、農業用の培土、園芸資材、建設現場では断熱、ブロックとして使われるなど、さまざまな用途開発がされている。

現在は滋賀県下の一廃ガラスびんを中心に取り扱う。業者から有価でも買い取っており、月間製造量は約600立方メートルとなっている。製造能力は最大で月間900立方メートルあるため、今後は有価での回収を強化して幅広く原料を確保していく。併せて、滋賀県のリサイクル製品認定制度(ピワクルエコシツ

プ)の認定も取得し、製品の認知度向上と利便性の開拓に努めている。考えた。

同社は1972年の創業。土木事業や碎石で40年以上の歴史を持ち、特に碎石分野で実績を重ねてきた。そうしたなか、土砂崩れなどの災害対応からがれ

「スーパールは機能性が高いだけでなく、低環境負荷や資源の循環利用にも貢献できる。三方よし」の資材。水分野や園芸関係など、より幅広い分野での使用を進めていきたい」と抱負を語った。